

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173200898		
法人名	株式会社 ザ・ムーバー		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	埼玉県比企郡鳩山町今宿146-1		
自己評価作成日	平成24年 9月 日	評価結果市町村受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1173200898-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1173200898-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市佐谷田3749-1		
訪問調査日	平成24年10月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員が2名いて利用者の健康管理に重点をおいている。</li> <li>・ADLが低下しないように散歩、図書館に行くなど ほぼ毎日外出したり、関節可動域訓練をしている。</li> <li>・食前には嚥下訓練を実施し、誤嚥しないようにしている。</li> <li>・排泄リズムに応じたトイレ誘導によりオムツが外れる方もいて、寝たきを予防している。</li> <li>・利用者さんが生きがいを持って過ごせるように、詩吟、人形劇、生け花など得意な趣味を生かして生活を楽しんでいる。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>自然に恵まれた住宅地にこじんまりとした建物の2ユニット、18名のグループホームである。交通量の少ない道端には野菊が咲き、柿がたわわに色づき、季節を感じながら散歩を楽しむ環境である。健康管理を重視しており、2名の看護師を配置し関節可動域訓練や逐次型空気圧式マッサージ器(ケアスロン)により手足のむくみを防止し、外出支援に繋げている。地域の方々との交流を深め、運営推進会議を通して協力を得ている。管理者・職員は、連携したサービスの質の向上を目指し、地域で継続し安心して暮らしていただける支援に努めている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と人との絆を大切にし、その人に合った生活環境づくりを 目指します。」という理念を額に入れて常に目のつくところに表示し、会議等で唱和し、職員の共通認識を図っている。	事業所内の数か所に理念を掲示し、全職員が日々のケアサービスに活かせるように、会議で唱和する等、意識づけをしている。又地域との絆を大切にし、傾聴や絵手紙のボランティアの方との交流に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の一員として生活できるように、毎日散歩をし、地域住民と顔を合わせて会話をする機会をつくっている。	自治会に加入し、お祭りの出店で買い物を楽しんで頂いている。老人会の資源回収に協力し、散歩の折には季節の花や果物を頂くなどしている。また、ゲートボールの練習や馬を見たりと、日常的に地域の方と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催の「ふれあい広場」等に参加し、地域の方達とコミュニケーションを図り相談に応じている。町の介護支援ボランティア制度で傾聴ボランティアを活用して地域貢献を図りつつ、利用者にも大変喜ばれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。年度初めは初めて参加される方にグループホームについて説明をし、事業報告として行事報告、入居者状況報告等行っている。年に1回は地元消防団にも参加してもらい、地域との密着度を深めている。	町の担当者、区長、老人会会長、民生委員、家族等が参加し、定期的開催している。ホームでの暮らしぶりを報告し、回を重ねる事で地域の中で暮らす認知症の方への理解や支援の輪が広がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場を直接訪問したり、電話で利用者に関する相談を行っている。	役場と福祉事務所の担当者とは常に連絡をとりあっており、事故報告も含め実態を知っていただき、情報を共有しながらより良い方向に繋がられるよう、協力関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送りや会議を通して職員の共通認識を図っている。裏口は施錠せずに自由に裏庭に出られるようになっている。点滴等で一時的に拘束をするときは記録するようしている。	申し送りや会議を通して身体能力に応じ、安全に自由に過ごせる様、工夫をし見守りの連携に努めている。点滴時の拘束は家族の同意を得て実施し記録している。現在、表玄関の扉は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	随時 ミーティング時に虐待について、話し合いをし、身体はもちろんプライバシーや接遇にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、個々の必要性を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までの間に十分な機会をもうけて説明を行い、理解、納得をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を設置し、アセスメント時に利用者や家族から意見聴取を行っている。日常的なサービスを通して利用者からの要望を把握している。	面会時やケアプラン送付時に家族からの意見を求めている。入居者・家族の要望から今年エレベーターを設置し反映させている。今後、事業所の取り組みや行事案内を全家族にお知らせする事を課題としている。	家族に行事予定・食事内容・職員の紹介等を案内する事で、普段の暮らし振りを理解して頂き、意見や要望の表出、安心感に繋がるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回のユニット会議で職員からの意見や提案をきいている。管理者は必要に応じて職員との個別面談を行い、反映させている。	ミーティングやユニット会議等では職員の意見や提案等を取入れ易い雰囲気配りに気を配っている。入浴介助用椅子の購入や物干し場の設置等、要望が実現し、働く意欲の向上や質の確保に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最大限努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会をつくり、内部では事例検討を通してスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の「介護予防サービス担当者等研修会」や「地域ケア会議」に参加したり、「地域密着型連絡会」を持ち回りで開催して 交流を通じてサービスの質の向上をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間でアセスメントを共有し、生活歴や健康状態を理解したうえで、本人の意向に沿った対応を心掛け、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の困りごと、不安や要望を聞き信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、今までの環境を最大限に生かした その人中心の生活を見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、未来の姿として自覚し家族的な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員では限界があり、家族しか補えない事があるため共に協力しながら支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩コースにゲートボール場がありゲートボールをしている友人と話す機会をつくっている。入居前に住んでいた所の行事に参加したり、詩吟会に定期的に出席する方もいる。面会のかたにはお茶やお菓子を提供している。	散歩途中でゲートボールをしている方々と会話し、地域の仲間が詩吟会へ送迎してくれるなど交流を深めている。定期的に理・美容師の訪問があり、毛染めをしながら話す等、入居前からの生活習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい、穏やかな生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始時のアセスメントや日常的なサービス提供を通じて利用者の希望や意向を把握しているが、不安定になった時はその原因や対応方法をユニット会議で検討している。	「本人はどうなのか?」の視点に立ち、アセスメントを基に得意な事を引き出し、活かす事に努めている。図書館で紙芝居を朗々と読まれる方、歯科医への受診にこだわる方への通院介助等、本人の要望や馴染みの関係を保つことへの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族双方から聞くようにしプランに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りのなかで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画原案の作成にあたり、ミーティングやケアカンファレンスを通じてニーズの把握をおこなっている。	地域の関係者からの助言や支援を大切に、「その人らしい暮らし」が続けられるよう、アセスメントやモニタリングに全職員が関わり、厳しい意見や職員の気づきを介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個々の介護記録に日々の様子をわかりやすく記入し職員間で情報を共有し、サービスの提供に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対して柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方達が週1~2回来て利用者の話し相手をしてくれ、大変喜ばれている。敬老会やクリスマス会等にはボランティアの方の歌、踊り、手品等を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、訪問歯科による治療を実施している。専門的な受診が必要な時は大病院等にかかるよう援助している。	協力医の月2回の往診と訪問歯科医の受診をいただいている。その他専門科医の受診は家族に通院を依頼している。かかりつけ医との連絡を密に行い、受信結果の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師は連携を密に取り早期発見、早期治療を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は時折面会に行ったり、病院から連絡が入った時は病状を聞き、かかりつけ医に報告している。家族とも連絡をとりながら情報交換をしたり連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「看取りに関する指針」に基づき、対応方法や手続きに関する説明をおこなっている。看取り介護はかかりつけ医の協力をえて、医師による専門的な判断にもとずき、説明を行ったうえで家族の同意を得ている。	入居契約時に「看取りに関する指針」の説明を行い、重度化や終末期には医師から説明の上、家族の同意を得て対応している。関係者が密に連携を取り合い、他の入居者が動揺しないよう配慮をし、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	症例ごとに 看護師ケアマネによる研修、ミーティングを密に行い予期せぬ事態に対応する能力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の災害等を想定した避難訓練を消防署の指導に基づき 年1回実施している。迅速な避難誘導が出来るように運営推進会議を通じて地域住民に働きかけている。	年1回、消防署の指導に基づき訓練を行っている。災害時に備えたビデオ学習、新しい職員を対象にした夜間想定通報、消火器の使用方法等の訓練をしている。昨年の震災時に消防団の声掛けがあり、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝夕のミーティングにおいて利用者の人格を尊重したサービス提供ができるように必要な知識の共通認識を図っている。	一人ひとりの生活環境を理解し、対応の仕方を工夫し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。職員会議等で接遇マナーを取り上げ、その人らしい姿を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どこか行きたい所があるか個々に聞いて、出来る範囲で希望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を過ぎても自力で食べられる方や介助すれば食べられる方はせかさずゆっくり食べてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1～2か月ごとに理容師に来てもらいカットをしたり、パーマや毛染めの希望者にはその都度美容師に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の食事形態、食事制限やアレルギーのあるもの等を台所に掲示している。時折おやつにあんこ餅、桜餅お好み焼きを利用者と一緒に作ったりしている。日常では配膳、下膳、テーブル拭き、おしぼり等、支援を行っている。	献立に添った食材を調理し、個々に応じて刻み食やミキサー食等の提供をしている。職員が同じ食卓を囲み話題を引き出す様な言葉かけをしている。行事食や桜餅づくり、外食の寿司・ピザ等、普段と違った食事の楽しみも支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎食後記録し体調管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの誘導や介助をし、義歯を洗ったり、うがいの介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」で排泄リズムを把握している。ポータブルトイレを活用し、排泄の自立に向けた取り組みを行い、効果をあげている。	排泄パターンの記録や排泄のサインを職員が把握し、その日の体調や身体機能に応じて二人で介助する事で、意思表示や排泄自立に繋がる等の効果を上げている。おむつを減らし経済的な負担の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「排泄チェック表」を活用し、水分摂取や下剤等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ユニット毎に入浴日が異なる為、利用者の希望に沿うように毎日入浴できる体制を整えている。	週3回の個浴を基本とし、ユニット毎に入浴日を変えている。希望があれば毎日入浴が可能であり、容態により二人で介助する等、職員の密な連携によって寛いだ入浴の支援体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はあまり長くないようにし、昼夜逆縁しないようにしている。睡眠導入剤もなるべく使用しない異様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように工夫し起床時、毎食前・後、就寝時に職員が責任を持って与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除ではモップ拭きをする人、車椅子で手すりを拭く人など できる範囲で役割を持ち、洗濯物をたたむ人もいる。趣味の詩吟の会に参加する人、以前住んでいた所へ定期的に出かける人など個々に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日近隣へ散歩に出かけたり、時折ファミリーレストランへ出かけて外食したりしている。買い物(農産物直売所、百円ショップ、商店街など)図書館、資料館等への外出支援をしている。季節の移り変わりを体感できるように初詣、花見、お祭り等にも出掛けている	散歩を暮らしの中に組み込み、希望に合わせて商店街への買い物、図書館・資料館に通う方、レストラン・喫茶店の外食を楽しむ方等の支援を行っている。敬老の日には温泉に行く等、特別な外出支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に個々に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は事務所からかけるようにし、かかってきたときは利用者にとりついでいる。手紙類のやりとりに関しても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに予定表をリビングに掲示している。行事や日常生活における利用者の様子をとった写真や似顔絵を掲示している。	リビングの対面式キッチンが見守りや会話をしやすくし、家庭的な雰囲気となっている。廊下には折々に撮った笑顔の写真が飾られ、玄関には個々の靴入れと帽子が揃えてあり、一人ひとりの感覚を大切に空間づくりの配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは利用者の様子をみながら、時折席替えをする。気の合った利用者同士がゲームをしたり、お喋りができるように椅子の位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にしていた仏壇、写真、衣類、テレビ等を自室に持ち込み、自宅にいる感覚で落ち着いて生活できるように配慮している。	居室入り口に好きな暖簾を掛けたり、室内に仏壇を置く方、鉢植えや折り紙を飾ったりと自由に模様替えして頂いている。介護度の重度化や隣人との関係性に気を配り、居心地良く暮らせる配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自走出来る人がホーム内を自由に移動できるようにホールの座席の位置を工夫している。		